

メキシコ政治情勢（3月）

〈概要〉

【外交】

- ・ 1日、ジェイコブソン駐メキシコ米大使が5月始めに離任する旨のメッセージをツイッターに投稿した。
- ・ 6日、ペニャ・ニエト大統領はバチェレ・チリ大統領，サントス・コロンビア大統領（議長国），クチンスキー・ペルー大統領ら太平洋同盟加盟国首脳との間でビデオ会談を行った。
- ・ 7日，クシュナー米国大統領上級顧問がペニャ・ニエト大統領を訪問した。
- ・ 8日，グアハルド経済大臣がチリ・サンティアゴでTPPの署名式に出席した。
- ・ 9日，墨外務省は朝鮮半島の非核化のための会合に関するプレスリリースを発出した。
- ・ 11日，ペニャ・ニエト大統領がチリ大統領就任式に出席した。
- ・ 13日，墨外務省は米國務長官の交代に関しプレスリリースを発出した。
- ・ 15日，ビデガライ外相は訪墨したグルドー＝モンターニュ（Gourdault-Montagne）フランス欧州・外務省次官と会談を行った。
- ・ 21日，墨外務省は習近平・中国国家主席の再選に関しプレスリリースを発出した。
- ・ 21日，墨外務省はプーチン露大統領の再選に関しプレスリリースを発出した。
- ・ 22日，墨外務省はクチンスキー・ペルー大統領の辞任に関しプレスリリースを発出した。
- ・ 22日，墨外務省は墨大統領選挙に関するプレスリリースを発出した。
- ・ 26日，墨外務省は3月4日に英国にて行われた神経ガスを用いた攻撃を非難する旨のプレスリリースを発出した。
- ・ 26日～27日，ニールセン米国土安全保障長官が訪墨した。

〈外交〉

1 ジェイコブソン駐メキシコ米大使の離任表明

（1）1日，ジェイコブソン駐メキシコ米大使は自身のツイッターにスペイン語で5月始めに離任する旨のメッセージを投稿した。ジェイコブソン大使のメッセージは以下の通り。「駐メキシコ米大使として自国のために働くことができたことは光栄であった。米国政府における31年間の業務を経て，5月初旬に新たな機会を探すために離任する。墨米関係は強固且つ重要であり，我が在メキシコ米大使館一同は，引き続きこのことを確認していくであろう。現時点では，誰が後任となるか情報はない。自分はメキシコに愛着を持っており，引き続き自分が述べてきたことを最大限行っていくであろう。」

（2）上記メッセージに関連し，同日，墨外務省は以下の通りプレスリリースを発出した。

2月17日に行われた米墨の電話会談の際，ティラソン米國務長官がビデガライ外相に

対し、ジェイコブソン駐メキシコ米大使が辞表を提出しており、間もなく新米大使のアグレマンを申請する予定である旨述べた。

かかるアグレマンは2月20日に公式に申請され、同26日に墨外務省は米國務省に対し、新米大使へのアグレマンを付与する旨回答した。誰が新米大使に任命されるかを公表するのは、米政府のみが行うことである。

墨外務省は、ジェイコブソン大使のメキシコのみでなく北米地域全てに資する職責及び外交上の約束を評価しており、墨米政府間及び同国民間の率直且つ開かれた関係の構築への多大な貢献に感謝している。墨外務省は、ジェイコブソン大使の新たな職務における成功を願っている。

2 太平洋同盟首脳ビデオ会議

(1) 6日、ペニャ・ニエト大統領は、バチェレ・チリ大統領、サントス・コロンビア大統領（議長国）、クチンスキー・ペルー大統領ら太平洋同盟加盟国首脳との間でビデオ会談を行った。首脳達は、太平洋同盟加盟4か国の間の物品関税が100%撤廃される予定である2030年の戦略ビジョンの目標について協議を行うと共に、国内市場を強化するため、またグローバル・バリュー・チェーンへの一層の参入を達成するために加盟国が共有する意志を歓迎した。

同様に、太平洋同盟準加盟国候補である豪州、カナダ、ニュージーランド及びシンガポールとの交渉における進展を確認した。現時点で、これらの国とは最初の2回のラウンドが終了しており、今週中に第3回ラウンドが終了する予定である。

ビデオ会談中、首脳達は、バチェレ大統領が3月11日に終了を迎える任期中、太平洋同盟のために行った働きを評価した。この意味で、2016年6月から2017年6月までの議長国期間に、バチェレ大統領がジェンダー問題のテーマを含めたことや、同様にメルコスールやAPEC等の他の統合メカニズムに接近したことを首脳達は強調した。

ペニャ・ニエト大統領は、2018年7月24及び25日にメキシコにおいて第13回太平洋同盟首脳会談を行うことを発表した。

最後に、首脳達は、ビデオ会議にて得た合意を明記し、2018-2019年間にペルーを議長国とする太平洋同盟首脳声明を発出した。

(2) 太平洋同盟は、2011年4月28日に設立されたチリ、コロンビア、メキシコ及びペルーから構成される地域統合メカニズムである。合計人口は2億2千百万人、ラテンアメリカ及びカリブ地域のGDPの37%を占めており、世界第8位の経済を構成している。加盟4か国は、地域貿易全体のおよそ57%を占め、60以上の市場へのアクセスを容易にする50以上の自由貿易協定網を有している。

3 クシュナー米国大統領上級顧問の訪墨

(1) 7日、ペニャ・ニエト大統領が、トランプ米国大統領の使節であるジャレット・ク

シュナー米国大統領上級顧問，キンバリー・ブライア米国国務省及び国家安全保障会議の事務方の訪問を受けた。ビデガライ外務大臣及びグアハルド経済大臣が同席した。同会談の前に，ビデガライ外相はそれら米国政府関係者と実務協議を行った。

(2) 会談において，クシュナー上級顧問は，共同イニシアティブを引き続き前進させることの重要性に関するトランプ大統領のメッセージを伝達した。両国は，双方にとって有益な合意を得るために働くことを合意した。

墨米政府関係者は，国境を越えた犯罪組織，麻薬密売及び武器・現金流通に対する闘いを含む，相互の関心事項に関して協議をおこなった。また，国境の治安，農業労働従事者を対象とした移動の周期プログラムのあり得べき計画を含む秩序ある安全な移民，中米地域の開発及び雇用創出及び公正で互恵的な貿易を通じた繁栄に向けた努力の他，北米自由貿易協定（NAFTA）の交渉の迅速な継続について協議を行った。

ペニャ・ニエト大統領とトランプ大統領のあり得べき首脳会談については，両国政府関係者は，同首脳会談の実現は NAFTA 並びに治安，移民及び経済協力の分野を含む，両国間の統合に関する合意がどこまで進展するかどうかによるものであると合意した。

4 グアハルド経済大臣の TPP 署名式出席

(1) 8日，グアハルド経済大臣は，チリのサンティアゴにおいて，豪州，ブルネイ，カナダ，チリ，日本，マレーシア，ニュージーランド，ペルー，シンガポールそしてベトナムの貿易大臣と共に，メキシコを代表して CPTPP の署名式に出席した。協定の署名式に参加した 11 か国の閣僚は，2017 年 1 月の米国の TPP の離脱後に，TPP のメリットを実現させ，新たな法的措置が合意された交渉プロセスに対する承認を表明した。

(2) CPTPP は，元の TPP の内容を含み，凍結される 22 の条項以外のテキストは変更されなかった新たな協定である。CPTPP によって，メキシコの製品は，6 つの新たな市場（豪州，ブルネイ，マレーシア，ニュージーランド，シンガポール及びベトナム）そして合計で最大 1 億 5500 万人の潜在的な消費者に対するアクセスを得る。更に，CPTPP により，メキシコは日本の農産物市場へのアクセスを深化させ，カナダ，チリ及びペルーとの特惠関税を強くする。

5 朝鮮半島の非核化のための会合に関する墨外務省発表

9日，朝鮮半島の非核化のための会合に関し，墨外務省から概要以下のプレスリリースが発出された。

「タイトル：メキシコは朝鮮半島の非核化のための会合開催の発表を歓迎する。

メキシコは，朝鮮半島の非核化を議論するための米国・北朝鮮首脳会合の開催の発表を前向きなものとする。

メキシコは，本件のために韓国によって推進された外交努力を歓迎するとともに，本会合のためにミサイル発射実験を停止するとの北朝鮮の意向に留意する。

メキシコは、今回の発表の進展を大きな関心をもってフォローし、国連安全保障理事会の諸決議と整合的な形で朝鮮半島の非核化に向けた具体的な結果が達成されることを願う。」

6 ペニャ・ニエト大統領のチリ大統領就任式出席

(1) 11日、ペニャ・ニエト大統領は、チリ共和国の大統領就任式に出席した。同式典においてはピニェラ(Sebastian Pinera Echenique)元大統領が二度目となる大統領に就任した。

バルパライソ市のチリ国会議事堂にて行われた本式典には、アルゼンチン、ボリビア、ブラジル、エクアドル、ホンジュラス、パラグアイ及びペルーの首脳、フアン・カルロス I 世スペイン前国王、他の政府代表者並びに様々な国の政府関係者及び外交関係者が出席した。式典の後、国家元首及び政府首脳は、その同行者と共に、ビーニャ・デル・マル市のセロ・カステージョ大統領官邸において、ピニェラ大統領主催の昼食会に出席した。

その後、ペニャ・ニエト大統領は、エルナンデス(Juan Orlando Hernandez)ホンジュラス大統領と会談を行い、二国間の課題について議論を深めた。

(2) また、ペニャ・ニエト大統領、ボルヘス(Julio Borges)ベネズエラ国会議員及びベッキオ(Carlos Vecchio)大衆意志党国内政治調整官と会談を行った。大統領は、野党の代表者からベネズエラが経験する深刻な実態について聴取するとともに、メキシコが表明している連帯に対して謝意が表された。また大統領は、ベネズエラ国民が対話によって現状の平和的・民主的な解決策を見つけるため、ラ米地域における外交努力を支援する旨改めて述べた。

(3) チリ大統領就任式へのペニャ・ニエト大統領の参加は、1990年の両国関係再開以降強化されてきた、同国との活発かつ良好な関係を反映したものである。メキシコにとって、①政治対話を深めること、②通商・投資関係を促進すること及び③両国間の協力を拡大することは極めて重要である。

(4) チリは、メキシコにとってラテンアメリカ・カリブ地域における3番目の貿易相手国であり、二国間貿易は両国間の自由貿易協定が発効した1999年以降ほぼ倍増し、33億4100万ドルまで増加した。メキシコとチリはまた、地域の経済統合を推進する太平洋同盟のメンバーである。他方、メキシコは、地域におけるチリ市場への供給国のうち第3位を占めている。

7 米国務長官の交代に関する墨外務省発表

13日、墨外務省は米国務長官の交代に関し、概要以下のプレスリリースを発出した。

「墨外務省は、ティラソン米国務長官が国務長官として墨米関係のために取り組んだ業績を認識している。また、墨外務省は、米上院議会での承認プロセスを了した後、マイク・ポンペオCIA長官の新国務長官としての成功を願うとともに、調整された方法 (de

manera coordinada) で墨米関係のために取り組んでいきたい。」

8 ビデガライ外相とグルドー＝モンターニュフランス欧州・外務省次官との会談

(1) 15日、グルドー＝モンターニュ次官はビデガライ墨外相と会談を行い、ル・ドリアン (Jean-Yves Le Drian) フランス外相からの挨拶を伝えると共に、統合戦略パートナーシップの深化に引き続き取り組んでいくことに関する同国の関心を確認した。外相は、マクロン仏大統領に早期に訪墨してほしいとのペニャ・ニエト大統領からの招待を改めて述べた。

グルドー＝モンターニュ次官及びビデ・イカサ墨筆頭外務次官は、2017年に両国によって署名された"方向性ペーパー"以来の合意事項及び進展した活動の成功裏の実施を確認した。両者は、新しくなった墨仏戦略評議会は、経済、文化、学術及び科学技術関係を豊かにさせる革新的な提案を生み出すための決定的なツールであるとの点で一致した。

同様に、両国並びに欧州、アジア及びラテンアメリカにおける最近の出来事につき意見交換を行った。アルゼンチン G20 における協力分野についても協議した。

(2) 2014年以降、メキシコとフランスは、両国関係を特別なレベルに高めた戦略パートナーシップを構築してきた。2016年、メキシコにとってフランスは世界で14番目の貿易相手国であり、欧州連合の中では4番目であった。また、全世界で9番目の対墨投資国であり、欧州連合の中では6番目であった。メキシコには、1,853社のフランス系企業が存在している。

9 習近平・中国国家主席の再選に関する墨外務省発表

21日、墨外務省は、ペニャ・ニエト大統領が習近平・中国国家主席の再選に対する祝意を表明した旨の概要以下のプレスリリースを発出した。

「ペニャ・ニエト大統領は、習近平・中国国家主席に再選を祝福する書簡を送付した。同書簡の中でペニャ・ニエト大統領は、習国家主席の2期目における成功を願うとともに、メキシコと中国が、引き続き、両国間の友好の絆並びに統合戦略パートナーシップを特徴づける交流及び協力関係を強化していくことを確信していると表明した。」

10 プーチン露大統領の再選に関する墨外務省発表

21日、墨外務省は、ペニャ・ニエト大統領がプーチン露大統領の再選(4選)に対する祝意を表明した旨の概要以下のプレスリリースを発出した。

「ペニャ・ニエト大統領は、3月18日に行われた大統領選挙において再選されたプーチン大統領に対して祝意の書簡を送付した。同書簡の中でペニャ・ニエト大統領は、プーチン大統領の4期目における成功を願うとともに、メキシコとロシアが、引き続き両国間の友好・協力関係を強化していくことを確信していると述べた。」

1 1 クチンスキー・ペルー大統領の辞任に関する墨外務省発表

22日、墨外務省は、クチンスキー (Pedro Pablo Kuczynski Godard)ペルー大統領の辞任に関する概要以下のプレスリリースを発出した。

「メキシコ政府は、外務省を通じ、クチンスキー大統領の辞任に至ったペルーの政治情勢につき、深い遺憾の意を表明する。メキシコは、関係機関及びペルー民主主義の強さが、この兄弟国家の憲法・法令の枠組みに完全に則った、政権移行を保証することを確信している。メキシコは、成功した統合スキームである太平洋同盟のように、二国間及びマルチの場でのペルーとの関係を引き続き緊密化することに対する堅い意志を改めて表明する。」

1 2 墨大統領選挙に関する墨外務省発表

(1) 22日、墨外務省において墨大統領選挙に関する当地外交団に対するブリーフィング会合が開催され、墨外務省が発出したプレスリリースに基づく概要は以下のとおり。

「22日、国家選挙機関 (INE) 及び連邦選挙裁判所 (TEPJF) は外務省において、当地外交団に対し、本年メキシコにおいて行われる選挙プロセスについてのブリーフィング会合を行い、連邦及び地方において3400人以上の公職者が選出されることになる本年の選挙のプロセスについて説明を行った。

(2) コルドバ (Dr. Lorenzo Cordova) INE 理事長及びオタロラ (Dra. Janine Otalora) TEPJF 長官が出席して行われた本件会合は、両者が、メキシコ史上最大の選挙となる本年の選挙の合法性を確保する役割を有するこれらの組織の役割について各々説明する場となった。コルドバ理事長は、確実性、合法性、独立性、公平性、客観性及び最大限の広報という選挙における基本的な原則をもとに本年の選挙を実施するため、INEは準備を行っている旨述べた。また、同理事長は、INEが引き続き当国の政治・社会面の安定及び確実性に資するためには、全ての政治主体、市民社会組織及び市民の支援、並びに国際社会の支援が重要である旨改めて述べた。オタロラ長官は、TEPJFの優先順位は常に「法の支配」を保証することにあるため、選挙プロセスに関する全ての事案を完全な独立性と自律性をもって解決することになるであろうと述べた。また、同長官は、全てのメキシコの選挙システムが憲法と整合的であることを確保するため、TEPJFの中立性の原則を改めて述べた。」

1 3 英国における神経ガス攻撃に対する非難

26日、墨外務省は3月4日に英国ソールズベリーにて行われたセルゲイ・スクリパリ氏および娘のユリア氏に対する神経ガスを用いた攻撃を非難する旨のプレスリリースを発出した。英国政府が本件攻撃はロシア政府によるものだとしていると言及した上で、化学兵器禁止条約および国際法に違反する化学兵器の使用について懸念を表明した。また墨政府は関係捜査を逐次フォローし、ある国家の他国領域における関与または介入が確認される場合には、メキシコにおける当該国の外交官に対し、外交関係二関するウィーン条約に

基づくペルソナ・ノン・グラータの宣言を含む、適切だと評価される外交的措置を実施する権利を留保するとした。

1.4 ニールセン米国土安全保障長官の訪墨

26日～27日、ニールセン米国土安全保障長官はメキシコを訪問し、ビデガライ外相、ナバレテ内相と会談、ペニャ・ニエト大統領を表敬訪問した。

(1) ビデガライ外相との会談

26日、ビデガライ外相とニールセン長官は両国国境地域の経済（特に労働者および企業）に裨益する3つの二国間協力文書への署名に立ち会った。ビデガライ外相、サンティン国税庁（SAT）長官、マカリーナン米税関国境警備局（CBP）長官との間で、貿易および税関における不正行為並びに外国貿易における密輸およびその他の不正行為に対応するためのMOUへの署名がなされた。同署名についてビデガライ外相は合法性確保のために取り組むための両国間の共働体制を構築し、両国の労働者および経済発展を保護するものであると述べた。また、サンティンSAT長官とマカリーナンCBP長官との間で、現行の貨物の事前検査プログラムと貨物統合発送プログラムを貨物共同検査プログラム（Programa de Inspeccion Conjunta de Carga(ICC)）と名付けられたプログラムに統合するためのMOUに署名した。ビデガライ外相は、同MOUによって一度の検査による墨米韓の通関が可能となると、通関プロセスの重複が無くなり、効率性が高まると述べた。さらに農牧省は、墨米の農産物の貿易における官信テーマにおける協力分野を確立する意図表明文書への署名を行った。ビデガライ外相は同文書は墨米間の農産物貿易の手続きを容易にするだけでなく、メキシコの農産物の米国への輸出および米国の農産物のメキシコへの輸入に確実性を与えるものであり、メキシコのすべての農業従事者および米国への輸出業者に資するものであると述べた。

(2) ナバレテ内相との会談

26日、ナバレテ内相とニールセン長官は会談を行い、移民問題、国境地域の治安問題、麻薬および武器の密輸と関係した犯罪組織に対する対応、サイバーセキュリティ、市民保護の強化の各分野における両国の協力枠組みに関し、両国間での率直かつ開かれた対話を維持するために協力を強化することで一致した。また両者は庇護を含む移民問題について、強固かつ効果的な協力をを行うためのメカニズム構築に向けて協力することを表明した。さらに国境地域の治安問題に関し、ナバレテ内相は武器の米国からメキシコ国内への密輸についての懸念を表明するとともに、かかる武器の密輸を抑制し暴力を減少させるために最大限の注意を払う必要がある旨述べた。これに対し、ニールセン長官は、米墨のチームは麻薬が米国に流入しないように、また、不正な武器および資金が引き続き両国に悪影響を及ぼすことがないようにともに取り組んでいる旨述べた。

(3) ペニャ・ニエト大統領への表敬

27日、ニールセン長官は大統領府においてペニャ・ニエト大統領を表敬した。両者は

両国が敬意を払いつつ率直で地道な対話を継続することの重要性，機会・相互交流・出会いを提供する地域としての両国国境地域の潜在的な重要性について話し合った。ペニャ・ニエト大統領は，米国におけるメキシコ人の人権の尊重が墨政府の優先事項である旨改めて述べた。また両者は共通の課題である治安問題について，調整された方法および両国の主権を完全に尊重した形で取り組む必要があることで一致した。